

ウクライナの話をしてしよう。

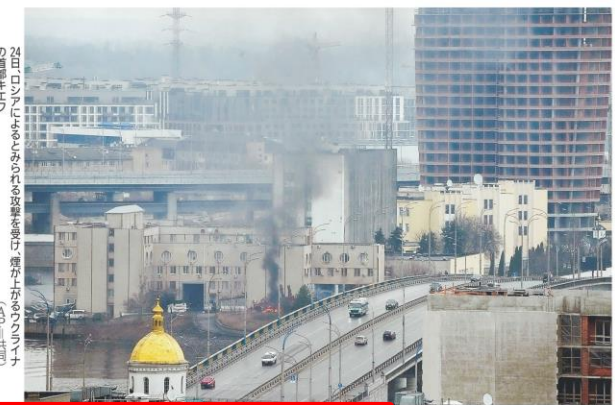
ロシアが侵攻開始した翌日、2月25日付朝刊に関連記事は何本？

新聞の特長と役割

神戸新聞2022/2/25付夕刊
24日、ロシア軍の攻撃を受けたウクライナ東部の
マリウポリで、がれきの中を歩く女性 (A P = 共同)



ロシア、ウクライナ攻撃



24日、ロシア軍の攻撃を受けたウクライナの首都キエフ。空襲で被害を受けた建物が見える。

軍施設空爆、地上部隊侵攻 死者40人超、市民も犠牲

【モスクワ、キエフ共同】ロシア軍は24日、首都キエフや各地の軍事施設を空爆し、地上部隊をウクライナに展開させた。ロシア軍は、ウクライナに侵襲し、軍事施設の懸念が高まる中、危機回避の外交努力が米国、欧州諸国とロシアの間でぎりぎりまで続けられていた。

【モスクワ、キエフ共同】ロシア軍は24日、首都キエフや各地の軍事施設を空爆し、地上部隊をウクライナに展開させた。ロシア軍は、ウクライナに侵襲し、軍事施設の懸念が高まる中、危機回避の外交努力が米国、欧州諸国とロシアの間でぎりぎりまで続けられていた。

神戸新聞

2022年(令和4年) 2月25日 金曜日

神戸新聞社
〒650-8571 神戸市中央区東川崎町1-5-7
電話 (078) 362-6000
報道部 7040 文化部 7044
経済部 7094 販売局 7066
送付部 7095 事業局 7086
〒650-7047 4F 7081
読者本誌部 650-7056
078-362-7056
月～金 10～17:00(土日祝日休)

購読お申し込み 0120-16-8349 9:30～17:30

フジテレビ

おかしな小鉢だ!
おかしな小鉢だ!

フジテレビ株式会社
http://www.fujitv.co.jp

ウクライナ戦火

社説 12面

新型コロナ 兵庫県の状況 推移グラフ26面
感染24万7501人(+276) 死者1750人(+20)
病床利用率68.7% 【重症病床32.3%】

軍事侵攻 関連ニュース

- 2 加ずく世界秩序無視
- 3 「攻撃中止を」届かず
- 4 侵攻ショック 市場見通せず
- 5 識者3人の見方は
- 6 原油、食料さらに高騰か
- 7 C/L決勝、ロシア開催割奪へ
- 27 逃げる市民「戦争だ」

6面 仏教史学を確立した第一人者

結婚出身の歴史学者・辻野之助は、いかにして仏教史学を極めたのか。姫路文学館のベテラン学芸員が解説する

17面 北京パラリンピックへ結団式

24面 県内公立高入試出願状況

26面 県、高齢者施設のワクチン接種支援

「ロシアに死と破壊の責任」

米大統領G7で追加制裁協議

【モスクワ、ワシントン共同】米大統領ジョー・バイデンは24日、ロシアがウクライナに侵襲したことに、追加制裁を科すことを発表し、ロシアに死と破壊の責任を問うた。

「ロシアに死と破壊の責任」

米大統領G7で追加制裁協議

【ワシントン共同】米大統領ジョー・バイデンは24日、ロシアがウクライナに侵襲したことに、追加制裁を科すことを発表し、ロシアに死と破壊の責任を問うた。

「ロシアに死と破壊の責任」

米大統領G7で追加制裁協議

【ワシントン共同】米大統領ジョー・バイデンは24日、ロシアがウクライナに侵襲したことに、追加制裁を科すことを発表し、ロシアに死と破壊の責任を問うた。

社説

2022.2.25

ウクライナを威嚇してきたロシアの行動が、ついに一線を越えた。親ロシア派武装勢力が支配する東部2地域からの軍事支援要請に応じる形で、プーチン大統領はききょう、ウクライナへの軍事作戦に踏み切った。

首都キエフなどの軍事施設がロシアのミサイル攻撃を受け、死者が出ている模様だ。南部ではロシア軍が上陸し、北部でも地上部隊が越境したとされる。他国の領土と主権を踏みにする暴挙というほかない。

力による現状変更は国際社会全体の秩序崩壊につながる恐れがある。ロシアの武力行使は明らかに国際法違反であり、非難や制裁の動きが世界に広がるのは当然だ。無条件で直ちに軍を撤収すべきである。

ウクライナ戦火

ロシアは軍事行動を中止せよ

首脳会談がマクロン仏大統領の仲介で実現に動きだし、米ロ外相会談も予定されていた。プーチン氏も、ウクライナ侵攻の意図はない」と再三述べていた。

そのさなかの一方的な軍事作戦である。対話重視の姿勢は、世界の目をあきむく工作だったのか。

国連が対決の場

実際、プーチン氏は手のひらを返すように突然、親ロシア派勢力による東部「ドネツク人民共和国」「ルガンスク人民共和国」の独立を承認する大統領令に署名した。さらに友好相互援助条約に調印し、「平和維持」を名目に軍派遣を命じた。

ウクライナ東部では、この時期に親口派勢力が政府軍の攻撃による被害を主張し、ロシア系住民がロシア側に逃れる動きを見せていた。

朝刊12面オピニオン面

神戸新聞2022/2/25付朝刊 1面

新聞の特長 ①<網羅性>

森羅万象（なんでも）がニュース。1面、総合、政治、国際、地域経済・経済、オピニオン、スポーツ、文化、地域、社会などさまざまな分野のニュースをそれぞれのページ（面）で網羅し、考える材料を提供する

見出しは「究極」の要約

前文に大事な内容（逆三角形）

一目で分かる
写真、図、表、グラフ

ロシアのウクライナ侵攻でも、1面、国際、政治、経済、商況、スポーツ、社会 —とさまざまなニュースを網羅

見出しだけでも一通り目を通せば



全体像が見えてくる

新聞の特長 ②

〈一覧性〉

新聞は世の中で起こっていることや知ってほしいことを、ニュースの**重要性**や**価値**を判断して掲載している。**一目で紙面全体が見られるので、ページをめくって(見出しだけでも)眺めるだけで、必要なことがざっと分かる**



「ひとぼう」20年来館900万人

人と防災未来センター

阪神・淡路大震災の教訓を伝える防災・研究施設「人と防災未来センター」が、開設から20年を迎える。開設から900万人を超える来館者を迎え、20年度は約24万人を所望する。施設は、震災を映像や音響で体験できるコーナーを設ける。東館は今年夏に開館する。

カタ

ロナ禍で活動激減

人と防災未来センターの語り部の講話回数

年	回数
2002	958
2005	1586
2010	1100
2015	1000
2020	199
2021	335



ロシア「東南部支配目標」

マリウポリ近郊に集団墓地

あす侵攻2カ月

【ワルシャワ22日電】ウクライナ東部のマリウポリ近郊に、ロシア軍が集団墓地を建設している。ロシア軍は22日、マリウポリ近郊に集団墓地を建設している。ロシア軍は22日、マリウポリ近郊に集団墓地を建設している。ロシア軍は22日、マリウポリ近郊に集団墓地を建設している。

2022年(令和4年) 4月23日 土曜日

神戸新聞社 〒650-8571 神戸市中央区東川崎町1-5-7 電話(078)362局

総合・政治	2.3.4
国際	5
オピニオン・発言	8
経済	10.11
商況	10.11.12
BS・ラジオ	13.14
囲碁・将棋	13.27
文化	14
読書	16.17
スポーツ	19.20.21
のちまち	22.23.24.25
ひょうご総合	26

小販「リペアラ」 6

社説 8面 軍事侵攻2カ月

日経新聞 100周年の特集

最新記事 2176人(+3)

感染37万4070人(+1680)

新規感染者25.1%

ヘッ

ガソリン補助金秋まで

低所得世帯の子5万円

物価高対策

ガソリン補助金秋まで

低所得世帯の子5万円

物価高対策

トップ

ロシア軍の侵襲状況

ロシア軍の侵襲状況

ロシア軍の侵襲状況

6面 マルの言葉が分かる少女

10面 神戸財界の社交の場 建て替え

13面 決戦！ 里見四冠×西山二冠

21面 兵庫リレーカーニバルきょう開幕

ぎょうの天気

地域	天気	気温
兵庫南部	晴	25
兵庫北部	晴	25
京都府	晴	25
大阪府	晴	25
兵庫県	晴	25

コラム

「わたん」生れも育ちも兵庫

「わたん」生れも育ちも兵庫

「わたん」生れも育ちも兵庫

正平調

「わたん」生れも育ちも兵庫

「わたん」生れも育ちも兵庫

「わたん」生れも育ちも兵庫

491085972321 00136

0120-44-9800

0120-44-9800

新聞の特長③ < 信頼性 >

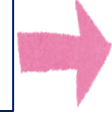
事実の **裏付け** をして掲載する

フェイクニュース

が拡散される SNS との違い

日本にも関係のある、戦争が始まった

主権国家への明白な侵略



力による外交

<キーワード> NATO (北大西洋条約機構)

日本も経済制裁

在留邦人もいる

避難民受け入れ



ポーランドから到着した、ウクライナからの
避難民を乗せた政府専用機=4月5日、羽田空港



わたしたちに、何ができるか考えよう

長期化(どちらか力尽きるまで)
⇒そのときの戦闘境界線は？

プーチン政権崩壊
(クーデターや反乱)

戦争拡大(ロシアが大量破壊兵器)
⇒ロシアとNATOの戦闘？

危機の30年 → **国際社会の分裂**

長期的視点・歴史的想像力

さらに分裂を生まない努力



選挙は、民主主義国家の
主権者がある意見を反映
させる基本的な機会



力による外交に
対峙するには

強靱な民主主義国家建設を

ロシアのウクライナ軍事侵攻を受けて、抗議
活動をする市民団体のメンバーら＝2月25日、
神戸市中央区三宮町3

NO WARの声を上げ続けること

